

企業訪問 循環型最前線レポート

(株)マルコー商会

徹底したリサイクルで
高品質の循環資源を生む。
原町リサイクルセンターが
動く。

(株)マルコー商会

建設廃棄物のリサイクルに本腰

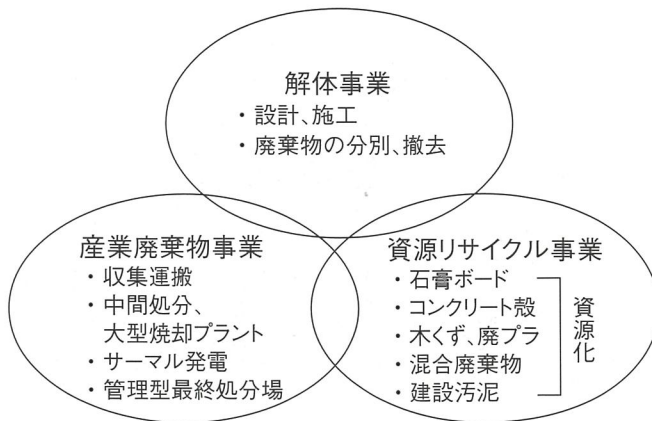
株式会社マルコー商会（豊橋市神ノ輪町20-2／洪本正克社長）は、循環型社会の構築に向けて、建設系廃棄物の解体から分別、リサイクル、適正処理を一貫して行う愛知県下でも有数の機動力と実績を誇る会社です。

解体事業では、大手ゼネコンと協力体制を組んで解体工事の設計、施工業務を行っています。

産業廃棄物事業では地元豊橋市や愛知県、名古屋市、豊田市、静岡県、静岡市、浜松市の許可を取得し、幅広いエリアで収集運搬業務を行っています。中間処理は廃棄物の分別と大型焼却プラントを有し、焼却、サーマル発電を行っています。焼却灰についても自社の管理型最終処分場へ埋立て、適正処理を行うなど産廃処理のトータルカンパニーとして活躍しています。

同社はさらに循環型社会の構築に向けて社会的使命を果たすべく徹底した分別、選別処理体制による完全リサイクル事業を新たに加え、そのための本格的なりサイクル施設、原町リサイクルセンター（豊橋市東細谷町一里山3-1）を平成14年3月に建設。資源化に向けて最新設備を導入し、万全な処理体制を整えています。

建設廃棄物の資源循環マインド



代表取締役社長／洪本 正克

■本社／〒441-8068 豊橋市神ノ輪町20-2

■設立／昭和60年4月

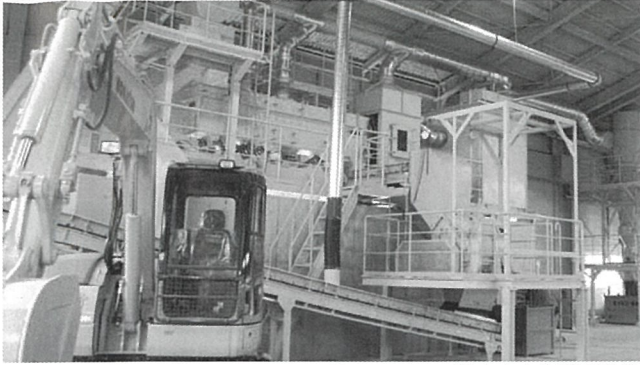
■取得許可／収集運搬：愛知県・名古屋市・豊橋市・豊田市・静岡県・静岡市・浜松市

特管収集運搬：愛知県・豊橋市

中間処理（破碎・焼却）：愛知県・豊橋市

特管中間処理（焼却）：豊橋市

最終処分：豊橋市



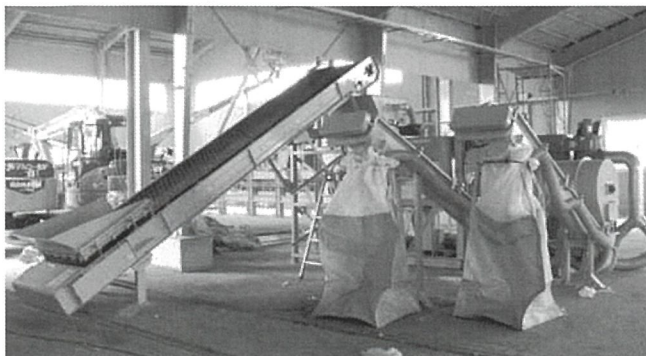
混合廃棄物選別設備

同施設は2000坪の敷地内に700坪の建物(51条施設)があり、あとのスペースはクレーン等重機類、収集運搬車両等の置場に使用。今後のリサイクル事業の拡大にも対応できる余裕を持った広さです。

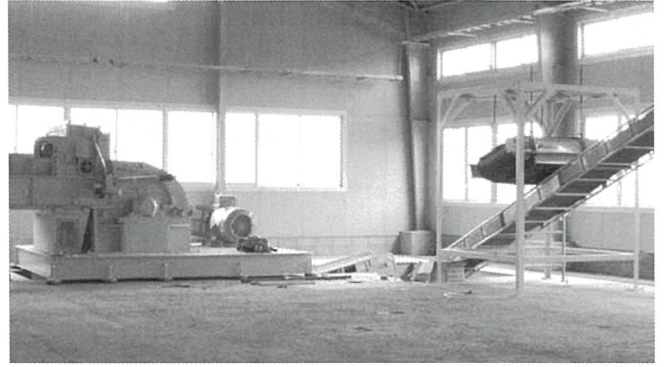
廃棄物をパーフェクトに処理 完全リサイクル化を目指す

リサイクルセンターでは、廃棄物の種類、性状に合わせて5つの処理ラインが配置され、破碎機、風力・磁力・振動選別機、粉碎機等により、品質の安定した精度の高い資源化に取り組んでいます。

- ①石膏ボードラインは破碎後、紙と石膏に選別し、紙は製紙メーカーへ、石膏は原料メーカーへ。
- ②木くず、ペレット板は破碎、選別、破碎を経てチップ化し燃料に、さらに粉碎して肥料に。
- ③コンクリート殻は破碎処理でRC40と砂になり、リサイクル資材として商品化。
- ④混合廃棄物は風力、磁力選別を経て10mmアンダーのリサイクル品と可燃物に選別。可燃物は自社の焼却施設でサーマル発電の燃料に使用。
- ⑤建設汚泥は乾燥、分別を経て再生土に。



石膏ボード選別設備



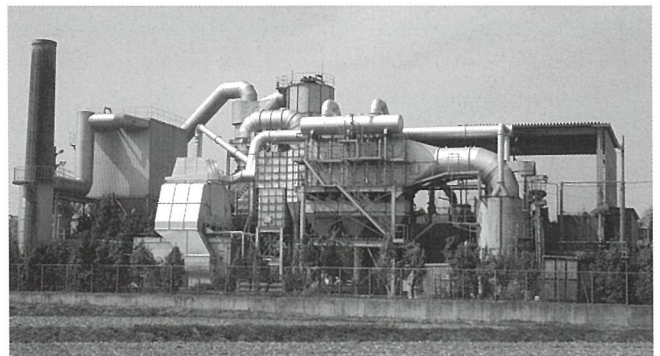
木くず・廃プラスチック破碎設備

同社では「廃棄物は自社で完全処理を目指す」をモットーに、新たに廃棄物を発生させない完全リサイクル業務を目指しており、その目標はほぼ達成。今後は混合廃棄物の選別をさらに徹底させて精度を上げ、高品質の資源製造に取り組むとのこと。

焼却灰が100分の1になる新型焼却炉 サーマル発電もパワーアップ

焼却施設は現在、熱効率が抜群に高い新型焼却炉に変更工事が行われています。新プラントは炉内の温度が廃棄物の投入時でも一定になるよう炉が回転式で、空気の調整、廃棄物の投入や量がコンピューターで自動制御されています。炉内温度は常に一定に保たれ24時間稼働します。新たに蒸気回収装置(凝縮器)が追加され、発電能力もさらにパワーアップしています。現在は自社内の使用ですが、今後は電力会社へ売電することも視野に入れているとのことでした。

循環型社会へ3つの事業が連携をとってダイナミックに変化と進化を遂げているマルコー商会でした。



焼却施設